

学生モニター会議 (2011年3月1日 14:00~15:30)

出席教職員 (敬称略)

壽, 竹永, 高橋 (信), 山本 (久), 夏野, 青井, 杉林, 東, 佐野, 堺, 江上
中宇禰, 武智, 日野 (さ), 山本 (佳), 田中
参加学生 20名

○昨年度の意見に対する取り組み (教務委員長報告)

授業内容について

- ・各教科によって方針があまりにも違うから統一してほしい・単位の認定があいまいである、授業内容も評価もバラバラである。
 - 一般的には多様性と標準化という問題になる。高等教育のよさは多様性にある。一方でそういうものを標準化するという流れがある。シラバスの整理であるとか、到達目標DPを設定したこと、キャップ制も一単位に対して必要とされる学習時間の確保などが現在進行している標準化へ流れである。この中で少しずつ整理されていくだろうが、多様性と標準化の調和が難しい。

- ・実践につながる授業、模擬授業をもっと取り入れてほしい・教員経験のある教員がいてほしい。現場でどのように活用されているかということをもっと知りたい。役立つ知識なども含む。
 - この点では長期的な視点に立ってやっている。教員養成系を中心とした新カリキュラムを構築して4年たっている。教育学部としては取り組んでやっている。

- ・個々の教員の問題であるが、レジュメのパワーポイントが読みづらい。早口である、等。
 - これに対しての取り組みは、FDの教員の職能開発として、授業公開、FDシンポなど。授業評価に関してもおこなっている。少しずつ、継続的に取り組んでいる。

- ・カリキュラムに関して。時間割に関して。必修時間が重なっている。
 - 卒業要件に関してのものはないようにしている。教科の必修までは保障できない。自分なりの履修プランをもって取り組んでほしい。

- ・介護等体験の公欠による対応が教員によって違う。
 - 公欠というのは明記している。共通理解を持っているとは思いますが、学生によっては社会福祉施設との関連で重なってしまうことが数件あった。昨年度、そういう問題はあったが、特殊な例として認識している。

- ・専修振り分けについて。その意味は？
 - 振り分けないと特定の教科に集中してしまうから。学部としての目的もすべての教科の教員を養成するのが目的だから。教員が相談活動にあたるように後期の前に日程を移すなど、努力している。

教員免許と一般就職について

- ・教職支援ルームの利用方法がわからない。中に入りづらい。あまり開放されていない。

→ 現在は敷居が低くなっているのでは？サポートの仕事なので、積極的に利用してほしい。教員側としては敷居を高くしているつもりはない。いつでも相談にのっている体制。

・ 県外の情報（教員採用について・一般就職も）が乏しい。

→ とくに教員採用については全県の分も情報を入れている。今後はより充実させていきたい。

学習環境について

・ コピー用のシステムが使いづらい。授業の印刷やコピーがスムーズでない。

→ 22年度はコピー機を増やしている。先生から借りることもできるようになった。学生専用のコピーカードは個人のものまで使ってしまうおそれもある。

・ 夜間や休日に入りたい。

→ これまでは申請が必要であったが、学生証で入れるようになった（限られた学生になるが）。

・ リフレッシュルームにパソコンが欲しい。

→ 防犯上、自由に出入りできるようになっているため、盗難のおそれもあり、パソコンは置けない。2号館の3階、メディアセンター、合同研究室、などで使ってほしい。

・ 前年度の学生からの要望 → 教員および職員からの回答

○ 今回の会議での学生からの要望

1. 授業内容・授業方法について

● 幼年教育は、ほかの小学校に関する授業を受けると、疎外感を感じる。自分たちとしては「幼稚園教育ではこういうことを教えられる」、という目安などあればご指導いただきたい。

→ 初等の方でも可能ならやってほしい。教員としても希望している。

→ 意識してやっているつもりである。美術は小学校とも重なる。受け止めかたによっては幼年教育でも値するものが多い。しかし実際には五歳児に教えるには、「こういうことを注意しよう」、「環境を整えよう」、ということについての意識化は必要。理想としては、算数とか理科としては現時点ではあまりないのかもしれない。その整備はカリキュラムのうえで、実践力・理論的な力をつけるためにも必要だと思う。今後の改革のなかで行っていくつもりである。

→ 学校現場の課題ということで、学部として対応しきれていない。幼少の連携をどうするか、ということも研究課題である。われわれの大学の授業でも意識されていない。そういった意味で、課題意識の具体化、例えば総合学習というのもどうするか、学部の中で教育課題として、研究課題として、あがっている。「総合的な学びの学習をどうするか」、ということを学部全体の課題意識として持っていくことが重要。

→ 疎外感とは？学生から？教員から？

○ 自分たちは、子どもといえば幼稚園の子どものことで、そのことを考えて意見を出したいが、例えばグループで他専修の人と一緒にになると、考え方が違うので、疎外感を感じる。

● （現職教員から出た意見）発達障害の支援のための実習で小学校に行っている。小学校の選定について、大学の方で教育委員会との連絡をもっと取ってほしい。実習校に入ったとしても、どう

するかという趣旨が実習校に届いていないことが多い。担任との連携がとりにくい。実習がしづらい。修論を研究する上での資料も得られなかった。

→地域支援実習については、教育委員からここに行ってほしい、という形での選定校。その中で重ならないように実習校を選んでいる。比較的問題はない形での実習校を選んでいる。ただし現実として問題があるのは事実。今後、検討していく。

- 前期の授業を登録するうえで、パソコンの扱い方、締め切りなどの情報などが届きにくい。

→ガイダンスの不十分なので徹底する。

- ゼロ免からの専修免許をとるということで、後期になると修論の作成作業もあり、しかも3回生4回生の授業も重なっており、余裕がない。教員側の出張などもあって、授業がつまる（補講が固まるなど）。夏季や冬季などで補講を入れるなど、院生側にも余裕がほしい。

→教育委員会との約束でこのような案になっている。現職の先生は基礎免ではないことから、特別支援の免許をとって、ということでタイトなスケジュールになっている。講座で検討したい。

- 講義の上で、インターネットの資料供給サービスにアクセス、といわれるが、安全面から疑問を感じる。パスワードの管理などについての共通理解をしてほしい。

- 大学院の共通授業、「教育の今日的課題」について、外部講師の授業もあるが、先生によっては現場での教育についてそのままの講話であったり、考え方にかたよりがあったりという意見もある。これらが学術的、教育の今日的な話であるか、疑問。

→指摘されていることはわかっている。ただ、学生も多様である。例として留学生、他学部からきた人もいる。したがってそういう問題が出るのもある程度はやむをえない。今後からは指導主事の人にも事情を話して、注文をつけていきたい。

- 言語聴覚士コースでは、履修単位などがシラバスになかった。明記されておらず、先輩からの助言をもとに履修しているので、受けるときに不安がある。シラバスに明記してほしい。

→年度ごとに変わっている部分もあるので、担当の先生の方で対応できなかったのではないかな。次年度からは変更も入れてあるので問題ないと思う。

2. カリキュラムについて

- 大学院の授業は実践センター（持田）と学部の方で授業がわかれている。休憩時間は30分あるが、歩きの場合など、30分だと困難。配慮していただけたら。

→カリキュラムとしては休憩時間もぎりぎり。授業の選択という問題なのではないか。臨床の授業同士では問題ないようにできているのではないかな。

○臨床心理だけをみるとそうかもしれないが、学校心理士などを取る場合は、授業の重複などもあり、移動時間も加味してほしい。特別支援を取りたい、等。他にいろんな場合もある。

→法文との重なりもある場合も。社会科教育の授業などは10分早く始めたりしている。次の授業を遅めに始めるという工夫などがある。個々の先生にお願いする、ということも。協議の場を授業の開始の場でつくってみては。

- 特別支援から。三回生の教育実習について、特別支援は特別支援学校の実習もあるので、2週間ほど授業への参加が遅れ、三回目の授業からの出席となる。ガイダンスについて知らないので、

あまり理解できないまま授業が進められていく。とくに課題についてガイダンスを再度行う等、配慮してほしい。

→実習カリキュラム委員ではどのような想定なのか？

→教務委員から各教室を通して全教員に周知させることが大事。

●教育実習について。研究授業に参加できないまま、小学校の実習を終えて特別支援に行く学生もいる。特別支援についても研究授業を経験しないまま教育実習を終える学生もいる。

●教員の免許を取得するうえで日数が決められている（4週間という期間）。小学校の普通の教員をメインにして特別支援を勉強している場合もあれば、その逆もある。統一されて決まっているというのが、特支がメインだと3週間ということで短い。

→4週+3週はあとの授業のこともあるので、動かしがたい。これ以上オーバーするというのはいまの時点では無理。1回目の研究授業への参加は可能なのではないか。われわれとしては特別支援の人はそのコースに所属しているという認識。この形でしか対応できない。5週+2週としてできたらいいが、これは法律上の問題なのでできない。

●編入生へのガイダンスが不十分なのではないか。例として、最初は司書教諭も取れるときいたが、最終的には授業が重なってしまって取れなかった。途中でわかった。

→全学から教務委員会に調査がきた。教務委員会でしっかり議論したい。

→司書教諭は夏にも講習が可能。それを利用して単位をそろえてほしい。前提として必修ではないため、他の科目と重なるのはある程度仕方ない。

3. 教員採用・一般就職に関する取り組みについて

意見なし。

4. 学習環境について

●パソコンの利用と合同研究室の利用について。1号館が綺麗で2号館との差がある。英語については昨年度までパソコンまでなく、ネットにつながっていない。プリンタもない。Macの利用についてはとくに不便である。

→机といすはキレイになっているはず。学生のパソコンは学生教育経費から捻出してほしい。LANについては検討する。冷暖房も完備しているはず。確認をお願いしたい。

→先生の研究費や資金でまかなってほしい。教室の責任として準備してほしい。ネットについてはもし確認しても不可能なら、学部の責任。

→ネットはつながっているはずなので、きちんと設定してほしい。

→情報文化演習室パソコンは、教員があまったお金で入れていた。合同研究室の真向かいにあるので情報文化演習室のパソコンを使ってほしい。自分の研究費を学生のために使いたくないとう教員もいるのは事実。教員研究室が空くので、学生の部屋に使えないか、ということは相談していく。

→学生の控室にはパソコンとプリンタは置くのは必須か？

→各教室で差がある。学生用の部屋に学部の予算として設置すると、不公平感が強まる。冷暖房やネット以外は各教室で対応してほしい。

→友人同士で比べるだけでなく、各教科の先生に環境整備のお願いをしてほしい。

→基本的には教科の先生に相談。しかし、緊急の場合は総務から先生に言うようにするので、総務に遠慮なく言うようにしてほしい。お願いとして、防犯として、ドアの施錠を徹底してほしい。小石を置いていたりしているので、必ずしめるようにしてほしい。知らない人がいたら、声をか

けてほしい。それだけで防犯効果も高まる。省エネについて。最後、部屋を出る時には、電気を消して空調を整えてほしい。その分、節約になる。少しのことでも、そういうことから気をつけてほしい。

→水道をつけてほしい、水がたまっている等のことは遠慮なく総務の方へ言ってほしい。

●コピーに関して、台数を増やしているなど対応していただいているが、学生が自分のお金をチャージしたカードを使うときがある。しかし、そのとき場所によってバラバラなので、統一してほしい。

→学部のコピー機に関しては統一している。使えるようになっている。全学のものは変えることができない。

●3階のリフレッシュルームにゴミ箱を置いてほしい。

→分別ができていない。しかも誰も掃除しない。仕方なく撤去した。ゴミ箱を置いてほしいという意見が出る割には分別ができていない。利益ばかりではなく、最低限のルールを守ってほしい。

→ゴミ箱は撤去する方法で進めている。各教室で、専修で処理するようにしてほしい。専修の責任である。分別が完全にできるまでは、増やせない。

●北門がせまくて自転車でぶつかるので、広くしてほしい。

→下りずに通る自転車の人が多い。ルールとしては、降りてからというのが前提。そのために広くするのはできない。門のところには単車が2, 3台ある。確認したら教育学部の学生であった。苦情も出ている。単車をとめている場合は注意してほしい。

●水泳の授業で使うが、老朽化されている。着替えや衛生面、安全面で問題がある。不便。できればプールの施設の充実をお願いしたい。山越の更衣室がせまい。外で着替える学生も多い。住民の目もあるし、寒い。更衣室を広げてほしい。

→教育学部ではなく学生支援課が担当なので、そちらに伝えるようにしておく。

5. その他

●大学院の臨床心理。実践センターの方では、M2の方に水道はついていない。実践センターは土日が使えない。カウンセリングを行っており、逐語録で時間を要するので、できれば開放してほしい。鍵のこの管理では個人情報もあることから学生だけの管理もできないので、事務の方をひとり増やすなどは可能か？逐語に関して文字におこすのは大変。音声スピードを変えられたり、文字にしたりのソフトが欲しい。そういう便利なものがあれば検討してほしい。

●水道の件、2号館の4階。国際理解。蛇口はあるが水がでない。

●就学支援システム。情報を伝達しているのは便利だが、掲示板と併用なのでチェックは大変。就学支援システムに一本化は可能か。

●音楽。5階の練習ボックス前では飲食禁止であり、自分たちでは守っている。しかし初等音楽などの授業では、他の専修にも徹底してもらおうようお願いしているが、中にはマナーが悪い学生もいる。音楽専修の学生だけでは対応できない。教室の使用について対応してほしい。

- | |
|--|
| <p>● 学生モニター会議で出た学部生・院生からの要望
→ 教員および職員からの回答</p> |
|--|